

2013 年度
トムスク国立教育大学
春季ロシア語・ロシア文化研修
報告書



お茶の水女子大学
グローバル人材育成推進センター、グローバル教育センター

「寒くて美味しくて楽しい3週間」

理学部 情報科学科 4年

濱園 侑美

ロシアと聞いて思い浮かぶものはマトリョーシュカ、ピロシキにボルシチという多くの人が思い浮かぶであろうものしか出てこなかった私が、トムスクで経験したことはそれ以上のことだった。

研修の内容としては主にロシア語とロシアの文化について学ぶことであった。ロシア語の授業は1日3時間週5日間を3週間、ロシア語のアルファベットを見るのも初めての状態から始めた。最初の1週間はアルファベットや挨拶、それから英語で言うと **This is a pen** のような内容だったため余裕を持って授業に挑めたが、次の週からそうも言えないくらいに大変だった。と言うのもロシア人の先生から教わるのだが、授業は英語ではなくロシア語で進められ、そして質問しようにも私はロシア語を話せないし、先生もそこまで英語が堪能ではなかったからだ。そして学ぶことが増えれば覚える量も増え、毎日の復習は欠かせなかった。しかしそのおかげか、最後にはロシア語でプレゼンテーションが行え、かなりの達成感があった。もちろんプレゼンテーションは一人の力で出来た訳ではない。

毎週火曜日の夜に日本語を学ぶロシア人との交流があり、そこで友達となったロシア人に手伝ってもらったのだ。お手伝いはプレゼンテーションに限らず、テスト勉強のサポートや単語暗記の手伝い、それから一緒にスーパーマーケットに行き美味しいものを教えてもらうなどの生活に欠かせない事までしてくれた。学校の先生でも英語があまり通じないという事から察しがつくだろうが、町では英語は全く通じずかなり戸惑ったが、彼らのサポートのおかげでそこまで不自由なく、むしろ楽しく過ごせた。

彼らの中でも特に仲良くしていた友達とは、週末お互いの部屋に行き来をして、おやつを食べたり共通の趣味である絵や漫画、アニメを見たり、時にはご飯をごちそうになったりした。そこで同世代のロシア人の生活が垣間みれたのは、ただの観光旅行では体験できない事ではないだろうか。

観光旅行では体験できない事としては、授業の一環



でロシアの文化について学べた事も一つである。毎日の語学授業の後1時間程度あり、ここではマトリョーシュカ以外の人形について、その作られた理由とともに実際に手を動かして作ったり、童話や歌を学び、最後の日に劇を発表したりした。また、この研修が2月から3月にかけて行われる最大の理由とも言える春の祭りマースリニツァについて学び、先生のお母様が手作りしたブリニーと言われるクレープをお腹いっぱい食べた。祭りにも週末参加でき、春を待ちわびているその雰囲気を目に体験できた事は忘れがたい。



面白い事に、その祭りの前後から気温が上り、雪が積もっていたところが氷になり前にも増して足下に気をつけながら歩かなくては行けなかった。残念ながら滑って転けてしまい、膝に大痣を作ってしまったが、それもいい思い出である。

この研修で得たもの、それは決して語学に関する事だけではない。直に体験し自分で感じ、そして消化していく、その事を今まで以上に重要に感じた。ロシア人は思った以上に暖かいしロシア料理は見た目以上に美味しいし、ロシアの冬の痺れるような寒さは体験しなきゃ分からない。英語が通じない土地での生活は思ったほどは大変ではない事も分かり、これからはもっと外に出て行きたいと強く思った。そして、国の違いは人の価値観などの違いの大きな理由ではないという事も、ロシア人だけではなくお茶の水大学の他の学部や学年の人と知り合えた事で改めて感じた。

しかし一方で自分の語学力の無さを痛感したのも事実だ。まずは語学という道具がなくては直にコミュニケーションすら取れないという事をもどかしく感じた。英語だけでなく学びっぱなしの中国語韓国語、そして今回のロシア語を含め、語学という道具を使いこなせるようにしたいと決意を新たにした。

さて、最初に挙げたロシアのイメージの1つのボルシチだが、ウクライナの伝統料理らしい。旧ソ連という意味では正解だったのか、迷うところである。

「極寒トムスク、心はぼかぼか」

生活科学部 人間環境科学科 2年

金子 はるひ

ソチオリンピック開催中にロシアに行けるなんて、なんて素晴らしい機会なのだろう！と思ってこのプログラムに参加しました。ゼロからスタートのロシア語は三週間でみるみる上達し、街に書いてある看板の文字が識別できる程にまで達したのは大満足です。空港到着日に英語が通じなかったのは衝撃的で、その次の日に街で迷子になった時は必死で知っているロシアの単語を必死で発音しましたが理解してもらえず、自分の習得していない言語の国に三週間滞在するのは初めての事で困難がたくさんありました。お店で紅茶を注文するのにも一苦労。迷子になっている私に街で声をかけてくれても何を言っているか分からずとりあえず会釈して逃げるといった事の繰り返しでした。現地では仲の良い友達がたくさんできて本当に嬉しく思っています。平日は午前中にロシア語の授業をロシア語+英語で受け、午後はロシアの文化体験をたくさんさせていただきました。伝統的な人形を作ったり、パンケーキを食べたりと、毎日新しいことをたくさん学ぶことができ、大変充実した時間を過ごすことができました。授業のあとは、街へ散策。-20℃の世界を歩いたのは初めての事です。周りの景色を見ながら歩くことだけですがごく楽しむことができました。日本映画を見に行きたけれど、まさかのロシア音声×字幕なしであったのは強烈な思い出です。クラシックコンサートを聴きに行ったり、オリンピックのモニュメントがある公園で雪に全力でアタックしたり、市場へ行ったりしました。寮の近くの大型スーパーも私にとっては最高の遊び場所でした。初めて見る食べ物にチャレンジし、ロシアならではのおいしいチーズ、キャビア、燻製のお肉を堪能しました。寮にロシア人の友達を招いて日本食を振る舞うこともしばしばあり、お互いの文化を身で感じて理解しあえました。具体的には手巻き寿司、お好み焼き、焼うどん、



豚汁を作りました。どれも好評で嬉しかったです。

休日のトムスクにはイベントがたくさんあり、一年の中で恵まれた時期に行けたと思っています。中でも、春の祭りでは、普段は部屋に籠っている人々みんなが一つの広場に集まり、大変活気に溢れていました。とりわけ、伯母様たちの美しく深みのある歌声には感動しました。

子どもたちに混じって大縄跳びしたのは本当に楽しかったです。

今まで英語が使える国に行っていただけに、今回の短期研修では笑顔で身振り手振りを使って自分の言いたいことを伝えようとする姿勢が大切であると強く思いました。また、現地の人の言語で言いたいことを伝えられない歯がゆさ、悔しさをよく感じました。そんな環境の中、英語の便利さに幾度となく助けられました。ロシア人の仲の良い友達がたくさんできたものほぼ英語のおかげであり、「英語」というお互い母国語ではない言語を使用して、一つの場に集まってたくさん話をして意見の交換をしあえたことは非常に嬉しかったです。自分はこのために英語を勉強してきたのだということをやっと初めて理解でき、もっともっと英語を勉強したいと心の底から思えました。話せば話すほど相手に興味が湧いて話題が尽きず、濃い時間が過ごせ、この「英語が使えることの感動」をより多くの人に実感してもらいたいです。また、ロシア語が話せない私に優しくしてくれる人はたくさんおり、人々の優しさに何度も触れることができました。日本では逆の立場になり、困っている外国の方たちの力になりたいです。

今回の短期留学を通じて日本の生活水準の高さを知ることができ、自分が恵まれた環境のもと生活していることを実感出来ました。一番衝撃的だったのはトイレの設備、交通手段の質の違いです。時間通りに到着する日本の鉄道には驚かされるばかりです。また、学生の日頃の時間の過ごし方に大きな違いがあることに気づきました。日本の学生はアルバイトをし、サークルに参加をして、少しでも空き時間があると新しい予定を入れて忙しくしてしまいがちですが、トムスクの友達は、自分の時間を大切に、一人でゆっくり過ごす時間が圧倒的に多いと思います。生活に余裕があるので心が暖かく、急ぐことも無いし、小さな幸せをたくさん感じているようでした。それと比べると、今の日本人にはこの「心の余裕」が足りないのではないかと私は考えました。私自身、これからは余裕のある生活を目指します。

今後の目標としては、英語の力をつけるのはもちろん、ロシア人の友達に会って少しでも会話の幅が広げられるように、これからもロシア語の勉強を続けていきます。国際問題にも目を向け、もっともっと幅の広い話ができるようになりたいです。

初めてのロシア、最高の経験になりました。これからも夢に向かって努力します！



「好奇心のままに」

文教育学部 言語文化学科 3年

川上 智子

わたしはロシア語専攻ではありませんし、ロシア芸術に特別に精通しているわけではありません。それでもロシアに行こうとしたきっかけは、夏にお茶大で開講された英語サマープログラムで、トムスク国立教育大学で日本語を学んでいた学生に出会ったことです。プログラム中は共通言語である英語によるコミュニケーションしか期待していなかったのに「ともこさんは東京に住んでいますか？」と知り合ったばかりのロシア人に日本語で話しかけられた時には、とても驚きました。

彼女たちに再会したいという思いから、シベリア地方のトムスクという未知なる街に3週間過ごすことになりましたが、全てが新鮮でめまぐるしい日々でした。

プログラムの内容は基礎的な語学の授業の他、ボルシチやブリニ(ロシア風クレープ)の試食をはじめ、人形作りなど多くの文化体験が組み込まれていました。放課後には日本語を学んでいる学生が散歩やカフェでのおしゃべりに誘ってくれます。トムスクは小さな街なので、バスやトラム(路面電車)を活用すれば、街中を移動することができます。公園や劇場、コンサートホール、スキー場、スケートリンクなどといった娯楽施設がたくさんあり、毎日飽きることは決してありません。やりたいことが日に日に増えていって、まるで夢のようでした。ちなみにわたしはスケート2回、コンサート・演奏会2回、それから劇場に1度行きました。今回はトムスクでは機会はありませんでしたが、映画やバレエやオペラも簡単なアクセスで行くことができます。



ソチオリンピックのトーチとともに

これからプログラムに参加する人々にとって一番不安なのが言語の問題だと思います。ロシア語のクラスではキリル文字のアルファベットの発音から始まり、現在形過去形未来形、月や曜日や数字といった、初心者レベルの内容がほぼロシア語を使って行われます。時々何をいっているのかわからないことがあります。わからないといえ（もしくはジェスチャーをすれば）先生は何度も説明してくれます。さらに私たちは今まで言語

を学んできた経験があるので、文法を学ぶ順序を推測することも簡単にできます。ただし、プログラムの期間が短い中多くのことを習うので、単語や規則を一回一回の授業でしっかり理解し、なるべくその日のうちにすべて覚えることが欠かせません。プログラムの終わりには、文法のテストと、ロシア語で日本文化を紹介するプレゼンテーションがあるので、それに向けて準備をコツコツすることも必要でした。いずれにしても、ロシア語の先生や国際チームの先生、日本語教育の先生、日本語学科の学生など十分なバックアップはついているので、やる気があれば心配することはまったくありません。生活面もロシア語が基本ですが、物を買ったりバスに乗ったりすることは一度経験すればすぐにできるようになります。わからないことはすぐに聞けばいいし、それができなかったとしてもわかることだけやれば良いと思います。

今回のプログラムは自分で自由に時間が使えることがとても魅力的だと思います。VISAの取得や保険の介入、自分のスケジュールに合わせた飛行機の予約など、これから海外に行くにあたって大切な手続きをする練習にもなりますし、生活力も多少はつくし、さらに、プログラムが始まってからは個人でやりたいことを決めて行くことができます。もちろん、仲の良い友人と一緒にできることもたくさんあります。

新しい土地で新しい言語を学び、新しい文化体験をすることは、わくわくドキドキの連続で得られることは山ほどあります。私自身ロシア語の初級者レベルの習得はもちろん、たくさんの日本語学習者のよき友人ができました。さまざまな人に出会い、さまざまな文化体験をしたことで、ロシア語を学ぶ意欲がとてもわきました。今後はこの研修で得た知識をもっとしっかりと継続的につけられるように、検定試験を受けてみようかと思っています。また、言語学選考なので、今後言語理論を学ぶときに英語や日本語だけでなく、ロシア語にも当てはめて考えることがとても楽しみです。



私は単純な好奇心に任せて動いてみるというのは、学生の今だからこそ素直に楽しむことができることだと思いますし、それはグローバル人を目指す心がけのうちのひとつとしてとても大切なことだと思います。私がロシアで経験したたくさんのすばらしいことをぜひほかの学生にも体験してほしいと強く願っています！最後に、この研修で大変お世話になった、先生方や家族をはじめとするすべての人々に感謝申し上げます。

日本料理のレストランで hot sushi (揚げ寿司) を注文！

「本当の異文化体験」

文教育学部 人文科学科 1年
重岡 こなつ

今回春休みという貴重な長期休みをロシアで過ごすことに決めた私。「なぜロシア？ロシア語？」色々な人に聞かれたし、私自身明確な答えを持たないまま日本を立ちました。強いて言うなら「今行かなければ一生行かなさそうだから」という予感だけ。しかし結果的にこの研修に参加する”べき”だったと思えるくらい多くのものを得られました。その一部を皆さんに伝えられればと思います。



まず、この研修では毎日 10 時から 13 時 20 分までの間ロシア語の授業が行われます。空港に降り立った時から薄々気づいてはいたのですが、ロシアではほとんど英語が通じません！そして日本人とは大きく異なり、私が英語を話すとこちらにあわせて英語を話してくれるということもありませんでした。私はキリル文字がなんとか読める程度のロシア語初心者でしたから、ロシア語学習意欲が旺盛だったというよりも本当に必要に迫ら

れてロシア語を学ぶ形になってしまいました。先生がロシア語しか話せないという事で授業がすべてロシア語だったため理解しきれない部分も多かったですが、とにかくロシア語漬けの三週間になりました。

午後や週末は現地の先生方やロシア人の日本語学習者に色々な場所に連れて行ってもらいました。トムスクは結構大きな町ですが、ほとんど日本人がいません。日本に興味を持ち言葉を勉強しても話す相手がいないらしく、日本語学習者の皆と話していると「日本語を話したい！日本人と交流したい！」という気持ちがひしひしと伝わり日本人としてとても嬉しくなりました。彼らの積極性に触発されて私も日本に居るとき以上にアクティブに行動できたと思います。最終的には一人であちこち出歩いて、買い物もできるようになりました。

研修前、私はロシアに対して寒くて鬱屈としたイメージを持っていました。しかし、実際は予想以上に近代的でしたし寮は日本の一般的な寮よりもうんときれいで快適だったとおもいます。日本では考えられないような不便もありましたが、先生やロシア人学生の心遣いのおかげで、日本には経験できないことだとすべてポジティブに捉える事ができました。このような研修ではホームステイのほうが一般的なので、寮生活をする事で「現地の人と

触れ合う機会が少なくなってしまうのではないかと心配する人もいるかとおもいます。でも、安心してください。トムスクに行けば必ずロシア人の友達ができます。自分が話す言語が全く通じず、街に出ると理解できない言葉が飛び交っている。これは、想像を遥かに超える不安を生みました。しかし、その時自分の世界に閉じこもるのではなくそこに飛び込んでみるのが何よりも大切です。これはとても勇気が居る事ですが、トムスクの日本語学習者たちは本当にフレンドリーで、何度も私に手を差し伸べ新しい出会いへの手助けをしてくれました。学生の街トムスクには留学生もたくさんいるので、カザフスタン人や中国人とも仲良くなって一緒に町へ出かけたたり寮で料理をつくりあったりすることができました。寮での生活だったので日本人の参加者とも勿論仲良くなれましたが、日本人だけで行動してしまうのではないかと不安は杞憂に終わり色々な人と関わる事ができたのが何よりの成果だったと思います。

ここまで私の文章を読んでロシア研修に興味を持っていただけたでしょうか。「折角行くなら英語圏がいい！」一もつともな事だと思います。しかし、英語が世界共通語と言われる現代でも、世界には非英語圏のほうが遥かに多く、様々な国で数多の人々がそれぞれの言語でそれぞれの文化を形成しています。日本にいたときから頭では理解していたつもりでしたが、ロシアに行く事で更に強く実感する事ができました。その言葉を知ろうとすることは相手の文化を知ろうとすること。歩み寄り理解しようとする気持ちを示してくれると私は信じています。日本語も英語も通じない環境で日本語学習者に出会えた時の喜びは筆舌尽くしがたく実際に体験しないと分かりません。そしてその後生まれる「私も彼らと同じ言葉を話せるようになりたい」という気持ち。それを得るためだけでもロシアに行く価値はあると思います。



そして最後に個人的な事をひとつ。今回の研修を通して、素直に人を頼る事ができるようになったのが大きな成長でした。今振り返るといい思い出ばかりですが、現地で生活するなかで孤独感に苛まれることもあったし日本では考えられないくらい切羽詰まった状況に陥る事もありました。(到着二日目で日本人だけで迷子になってしまうとか…)自分だけではどうにもならないことに直面しながらも、先輩後輩・日本人ロシア人関係なく助け合ってなんとか乗り切った三週間でした。自分の弱みを人に見せるのは好きではないし恥ずかしい。そして一見よくないことにも思えます。しかし考え方を変えて、自分をさらけ出して人と付き合う事ができたというように捉えて生活するようにしていました。さらけ出さざるを得なかったというのが正直なところですが、新しい自分に出会えた気がするしこのような考え方を帰国後もずっとしていければまた次に繋がるのではないかなと思っています。

「ギャップにやられた！ロシア」

理学部 情報科学科学科 3年

柳田 晴香

この研修を通してロシアに対するイメージが180度変わった。何気なく参加したこの研修。特にロシアに興味があった訳でもなくロシア語を学んでいた訳でもなく。ふと見たメールと友達による後押しで決まった。研修前には何の情報もなく不安であったが、着いてみるとトムスクは意外にも都会で、大きいスーパーも近くにあり寮も住みやすく生活には困らなかった。授業は月曜日から金曜日の週5日、10:00~14:45の間みっちりとおる。午前10:00~13:20の授業では先生が事前に用意してくれたスライドを用い、学校から配布された教科書にそって、ロシア語の基礎、発音から文法まで優しく丁寧に教わった。授業では発言する機会が多く、先生の熱意と工夫が感じられた。ロシア語の歌と劇を練習し、最終日に披露。その他プレゼンや試験の準備も手伝ってくれた。笑顔が印象的なども可愛らしい先生で、彼女でなければ難しいロシア語を3週間みっちり勉強することは不可能だったかもしれない。楽しい授業だった。安くて美味しい学食を挟んで午後14:00~14:45の授業。違う先生がロシアの文化についてのスライドやビデオを使って説明してくれた。この先生は英語が通じないので内容が難しかったが、日が経つにつれ少しずつ理解できるようになった。現地の日本人の先生方2人もとても親切で、授業でいまいち分からなかったところや試験対策のための補助を日本語でいつでもしてくれた。その他毎週火曜日の活動で日本語を学ぶロシア人との交流があった。20人近く集まり、遠く離れた土地に日本に興味関心をもつ人々が多くいることに驚いた。

私はこの研修でなによりも現地のロシア人との交流を大切にしたい。机上での勉強も大切だが、現地に来ることでしかできない経験をしてもっとリアルなロシアを知り、触れたかったから。寮生活だったので、自から動いた。火曜日のミーティングをきっかけにメッセージを送り毎日やりとりをし、休日はもちろん平日も授業が終わるとできるだけ多くの時間をロシアの友人と過ごした。ロシアは芸術と人々との距離が近い国で、休日にはオーケストラコンサートや、劇「仮面舞踏会」など見に行った。-28度でのスキーやスケート、春のお祭りマースレニツァもこの時期にあって、沢山のことを経験した。おうちにも何度か招待してくれて、家族に挨拶したり一緒にご飯を作ったり食べたり夜遅くまで語り合ったり、一緒に勉強したりゲームしたり、たくさん話してたくさん笑った。この親友たちを通して得たものがこの研修での一番の経験だったと思う。言語面では基本的な単語や文は理解できるようになった。



寮内

ロシア到着時はロシア語が分からなすぎて、空港での手続き等にも手こずったが、帰国時には機内でもロシア語で応答したり、空港の職員の方にもロシア語で話しかけたりして聞き取りもなんとなくできるようになっていたのが嬉しかった。ロシア語だけでなく英語も上達した。日本帰国後もロシアでできた友人たちとロシア語、日本語、英語を織り交ぜながらテレビ電話をしたりラインでメッセージをやりとりしたりして会話を楽しんでいる。

また語学はもちろん、異文化に触れることで考え方等にも良い影響を与えてくれた。アメリカやオーストラリアなどの多文化を持つ国とは違って、他文化に理解がない国では、ひとつひとつ慎重な言動をとり、違いを相手に伝えることが重要である。そこが文化交流の楽しいところでもあるが。向こうでは日本人はもちろん、アジア系の人種を見かけることがほぼなく、好奇の目で見られることも多々あった。この研修を通じて、そういった国の人との接し方も学んだ。また大学で勉強した人こそ喋れるが、現地の人にはほぼ英語でのコミュニケーションは不可能であった。空港のスタッフや学食・寮のおばちゃん、スーパーの店員等。英語が通じない国で3週間生活したことは私にとって初めての経験であり、それは私に自信も与えてくれた。実際考えてみると英語が使える人は世界中限られており、この先世界に通用する人間になるためにはこういった経験と理解が必要になるであろう。英語以外の言語、英語圏以外の文化、に実際に触れられたことはこの先海外で様々なバックグラウンドを持つ人たちと共に働く上でとても有意義なものになると確信している。それと同時にその大切さも知った。

この研修を通じてロシアに対するイメージが180度変わった。ロシアの人々は笑顔を見せないし一見怖い。がしかし、一度懐にはいれば、とても親切で思いやりがあり、思慮深い人種である。どこか日本人に近いものさえ感じた。さらに幸運なことに私の周りにいた友人たちは本当に純粋でかわいらしい人ばかりだった。気温こそ低いですが、本当に魅力的で温かい国



である。この研修に参加する以前の私のようにロシアにたいして関心がない人、あまりいいイメージを持っていない人も多いただろう。私もそうであったからこそ、日本人にはもっとロシアに興味を持ってほしいと思った。想像しているようなステレオタイプの国ではないから。ツンデレなロシア人とその不思議な国にすっかり魅了されてしまったようだ。ぜひまた戻りたいと思う。

このような機会を設けてくださり、本当に感謝しています。良い環境に恵まれた研修でした。この先ロシアと日本の架け橋になれたらなあと思います。ありがとうございました。

「春の街シベリア」

人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻 博士後期 3年
鄭 月子

わたしはロシアのシベリアにあるトムスク教育大学に行きました。研修期間は2月16日から3月10日、冬の真っ只中でした。朝10時から1時20分までロシア語の勉強、2時から2時45分までロシア文化についてレクチャーがありました。ロシア語が全くわからなかった最初のほうは、先生がPPTの絵とジェスチャーで根気よくわからせてくれました。その後、徐々にわかる内容が増えました。研修の最後に、みんなでお面を被り、簡単な劇をロシア語でやりました。また、アジアの文化をロシア語でプレゼンテーションをしました。今回の研修を通して、ロシア語でレストランでの注文や道を聞いたりすることができるようになりました。その後、サンクトペテルブルクとモスクワへ行きましたが、研修中で勉強したロシア語が大変役に立ちました。

トムスクでの三週間はとても濃いものでした。授業ではロシア語を学び、レクチャーや課外活動では、お人形を作ったり、マトリョーシカに色づけをしたり、クラシックコンサートを聞きにいったりとロシアの文化、習慣に触れることができました。先生たちとも距離が近かったように思います。先生達がお茶会を何回か開いてくれました。また、トムスクで日本語を勉強するロシアの学生さんと交流する機会がたくさんありました。おうちに招いてくれたり、土日を使ってトムスクのいろんなところに連れてってくれたり、プレゼンの手伝いを夜遅くまでしてくれたり…。先生を含め研修中に会った人たちはみんなとても親切、温かかったです。三週間、ロシアにどっぷりつかり、人々の懐の広さに触れ、いい意味で人生の価値観が変わるような貴重な体験をすることができました。また、ロシアに行こうと思います。研修を通しての自分自身の変化は一言で言い表せないなので、トムスク滞在中での自分の変化の一つを次に書きます。



ロシアの街に出てみると、驚くことに、雪の上に雀や鳩がこのこと歩いているのです。



不思議に思っで見回してみると木の枝やマンションのベランダに簡単なペットボトルで作られた鳥用の餌箱がところどころかかっていた。道の真ん中で、鳩に餌をやる人も時々みかけました。トムスクの人々のこうした行為はとても印象に残りました。鳥だけでなく、野良犬や野良猫もいました。夜になると人が凍死するほど気温が下がってしまうのに、みんな毛並みがよく、肉付きもよかったです。きっと、時々えさをくれる人を見つけて、上手に生き延びているのだなと思いました。このことが私の中で少し違和感として残りました。同じような違和感を他のところでも感じま

した。

研修中のある日、ロシアの画家から油絵を買うことになりました。シベリアのシンボルともいえる雪景色を描いたものを選びました。車のトランクから出し、一枚一枚と白い地面に並べられたのは色彩豊かな、春の風景ばかりでした。夏、秋の風景も数枚ありました。最後まで冬を描いたものはなかったのです。シベリアの風景画、真っ先に描かれるのは雪景色だと思い込んでいました。しかし、トムスクに住むこの画家にとって、白に覆われた単調な冬よりも、生命力が色彩を取り戻す他の季節のほうが絵に留めて置きたい存在と考えていたようでした。

また、ロシア語の授業で、先生が春（Весна）をいう単語をいうとき、とても楽しそうにしていたのも印象的でした。常に心のどこかで春の美しさを思い描いているのだなと感じました。ちょうど、研修中の3月2日、トムスクで春を迎える祭りがありました。街の中心広場は大勢の人でにぎわい踊ったり、歌ったりしていました。この日、少し暖かくなっているものの、気温は依然としてゼロを下回り、雪がちらつくこともありました。祭りのメインイベントは、七、八メートルあろう大きな人形を焼くことです。人形は冬を象徴し、それを焼くことで春を迎え入れるのです。雪に閉ざされた静かな大地シベリア、長い過酷な冬があるからこそ、そこに住む人々は小さな命をより喜び、大切にし、そして、誰よりも春を美しいものとして強く待ち望んでいるのだと感じました。シベリアの町、トムスクの人々にとって春こそが一番の特別な季節だと感じました。

研修前は、シベリアといえば雪に覆われた冬のイメージでした。研修から帰ってきたあと、シベリアにあるトムスクを思うとき、春を待ち望む人々の姿が浮かんできます。

贅沢に何でも準備されている日本の生活に比べると、冬のトムスクは単調でやや苛酷な環境といえます。しかし、こうした自然に圧倒されながら生きる環境に改めて身を置くことで、それまで気がつかなかった自然のささやかな変化や、そこに生きるものの緩やかな絆を感じることができました。選択肢が乏しいからこそ、それまで見過ごしていた自然の動き、生き物の生命力を感じ取ることができ、心がより豊かになったように思いました。

「挫折が人を成長させる」

生活科学部 人間環境科学科 3年

吉村 玖瑠美

私は2年生の夏休みにシドニーへ留学に行った時、自信をつけて帰国したが、今回のトムスク留学では、挫折や無力感を味わい、多くの自信を失った。その原因は主に非英語圏で生活したこと、ロシア語を理解するのが難しかったこと、勉強不足だったことがあげられる。しかし、その経験によって、自身を見つめ直し、価値観や人生観について考える機会を得ることができた。それは、何となく日本で生活していた私にとって何より必要であるが、日本にいただけでは絶対に気がつかないものだった。そのため、挫折を経験したものの、トムスクへ留学したことは全く後悔していない。むしろ、挫折は私にとって必要なものだった。

最寄りのノボシビルスク空港に着いた時は深夜だったため”寝る場所はあるか”と空港会社の職員に英語で尋ねた。すると **Body Language** を使って怒ったような表情で”No”と言われた。その時、私の中で衝撃が走った。”まさか空港内ですら英語が通じないなんて。ましてトムスク市内なんて…”これが最初の挫折であり、ここから私の闘いが始まった。三週間みっちりロシア語を学ぶと聞き”ロシア人のフィギュアスケーターにファンレターでも書けるようになるかな”と日本にいる頃は呑気に考えていたが、想像以上にロシア語は難しかった。巻き舌が苦手なため、自分の名前すら正しく発音できなかった。午前の授業は、ロシア人の先生による語学の授業だったが何度も発音を注意された。”発音もきちんとできない言語なんて学んでも楽しくないのではないか”と思った。しかし、日本語学習者との交流会で彼らの日本語が上手かつ日本語を上達させるために努力していることを知った。彼らは日本文化に興味をもっており、そういった単純な好奇心が勉強する動機となっていた。私も”自分はなぜ、ロシア語を学ぼうと思ったのか”と考えてみた。私は、フィギュアスケートとバレエがとても好きだ。また、独自の歴史を歩んだロシア史についても興味があった。このような興味関心から、ロシア語を学びたい、ロシアへ行ってみたいという気持ちになったのだ。その気持ちを再確認すると、自然と語学への意欲もわいてきた。最終課題はロシア語でのプレゼンテーションだった。文章はまず自分で考え、それからロシアの友人に文章を添削してもらい、先生の発音を録音して何度も声に出して練習した。当日のプレゼンテーションは非常に緊張したが、ロシアの友人が内容を理解し、それについて感想を述べてくれたことはとても嬉しく、少し自信がついた。第二外国語を現地で勉強することを通して、言語は文化を作り、人同士を結ぶツールであることを実感することができた。ロシア語以外の言語も積極的に学びたいと考えている。また、ロシア語に関してはせつかく文法書一冊分の内容を習ったのだから、これからも継続的に勉強をし、いつか選手にファンレターを書いてロシア語で話しかけてみたい。

研修期間中は寮暮らしだった。寮生活は、人生で初めてだった。日本にいた頃、私は実家暮らしで家族に頼ってばかりだった。研修中では、料理はもちろんのこと、洗濯も自分でや

らなければならなかった。自立心が21歳にして初めて芽生え、日本に帰ってからは料理や洗濯は自分でやるようになった。食材は近くにある大きなスーパーへ買い物にいった。全てロシア語で表記されていたため”この食材は何だろう”と、いつもドキドキしながら購入していた。また、日本では売り物にならないような傷のついた野菜や果物が売られていたが、現地の人は普通に購入していた。私はこの光景をみてショックを受けた。なぜなら、日本では考えられないことだったからだ。”清潔できれいなものを売るのが当たり前”という日本での価値観が大きく揺さぶられた出来事だった。しかし、外国に行ってみれば、価値観の違いは数えきれないくらいあるだろう。日本の価値観が当たり前ではないということに気付かせ、それを考え直す出来事だった。私は何回かこのスーパーで野菜を購入した。傷のついた野菜も、洗ってその部分を取り除けばきちんと食べられるものだった。異文化を受け入れるという過程で日本文化の良い面と悪い面の両方に気がつくことができた。私はこれからも海外へ行って日本とは違う文化に触れてみたいと考えている。



トムスクでは、先生と友人に本当に恵まれた。ロシア語が分からないため、一人で行動することが難しかった。そのため、いつも彼らと一緒に行動していた。その中でトムスクでの生活やロシアについて色々なことを教えてもらった。現地で日本語を教えている日本人の先生方は、いつも親切にしてくれた。テスト前日には、補講も開いてくれた。友人で特に仲が良かったのは、カザフスタン出身の友人たちだ。彼女たちとの会話を通して、いかに自分が勉強不足であるかということに気がついた。私は歴史が好きでそれに関連した本を高校時代によく読んでいたものだが、忘れていたこともたくさんあった。人と会話をする中でわからないことがあれば、質問をすることももちろん良いが、自分には前提となる知識が圧倒的に少ないことに気がついた。そのせいで会話が止まってしまってしまうことは非常に残念である。人が勉強をするのは、他人と心を通わせて対話をするためなのではないだろうか。

私はこの研修中、上手くいったことよりも上手くいかなかったことの方が圧倒的に多かった。多分、一緒に行った日本人の中で一番上手くいかなかったのではないだろうか。研修中に足を怪我してレントゲンを撮りに行くという経験もした。勉強面に関しては、他人と比べて悔しい思いもした。時には、日本に帰りたいたと感じたこともあった。しかし、そのような挫折の中からも学べることは上記で述べたように多くあった。むしろ、上手くいかなかったことが私を大きく成長させてくれたようだ。怪我をした際には、淡々とどう手続きをすればいいのかを考え、なるべく他人に迷惑をかけないようにできることは1人でやろうと心がけた。海外に行くのが2回目にしては、良い姿勢だったように思える。ロシアでの生活は、何となくだらだらと過ごしてしまった日本での大学生活に喝を入れてくれた。私は、日本に帰国してから自分の軸というものを新たに構築することができた。いかに自分は精神的にまだまだであるということロシアの極寒の中で知った。これから日本で精進し、大きく成長することができたら、またロシアへ行くつもりだ。

「Кто они?」

人間文化創成科学研究科 比較社会文化学専攻 博士後期 3年
許 喬

2月17日から3月10日（私は個人原因で3月7日）まで、私はロシアのトムスク国立教育大学で、三週間の文化研修に参加しました。基本的に月曜日から金曜日まで、毎日午前中は三時間ロシア語授業、午後も一時間ロシア文化、社会、民俗など関連の講義を受講する形です。週末の自由時間にもたくさんのイベントがあります。現地にいた日本人の先生が案内して頂いて、マトリョーシカ博物館の見学、マトリョーシカ作製の体験、バレエやクラシック音楽演奏会の鑑賞、ご当地春まつり（すごく賑やか）みたいなイベントも、いろいろ楽しいことをしました。そしてトムスク現地にいる日本語を勉強しているロシア人大学生との交流活動もあり、ロシア人のお家へ遊びに誘われて、何人の友達もできました。三週間、しっかり勉強し、たっぷり文化体験したあと、最後にロシア語の試験もあり、パワーポイントを作成してロシア語による日本（中国）関連文化の紹介についての発表を行い、ロシア語の演劇と歌もした後、今回の研修を円満に終わりました。そしてその後、ロシアのことをもっと知りたい気持ちが強いので、今回のチャンスを利用して、私はサンクトペテルブルクとモスクワへ向かって、さらに一週間旅行しました。

ロシアについての個人的な印象はずっと複雑でした。「ロシア」は古くて広い国であり、体育と芸術面においては世界中に強い存在感を示し、レーピンやトルストイのような偉大な人物は16世紀から絶えずに世界文化史に影響して来ました。そして「ソ連」という国は20世紀中誕生し、発展して、アメリカとの冷戦により世界格局を変えました、中国の政権を助けてくれたり、邪魔したり、他国と局部戦争もしたことがあり、最後は結局崩壊しましたが、その影響は未だ続いているのでしょうか。中国人である私にとって、ロシアこの国は「ロシア」と「ソ連」の二面性があるため、大変興味深く感じます。今のロシアはどのような国になって、今ロシアの人はどのように生きているのは前からずっと知りたかったです。



このような好奇心を持ちながら、今度の交流活動に参加して、持っていた疑問を一部解けた感じをしました。現地のロシアの人と交流すると、皆の芸術的なセンスに脱帽しました。様々な民族風のアクセサリを手作りする人も、油絵をとてもうまく描いてる人も、プロ並の写真を撮ってる人も、町中に普通にいます。夏になると、芸術家の「集まり」というバザも定期的で開催されるらしいです。絵の具を買うために、自分の作品を売ってる画家にも出会って、その人の

絵を何枚も買いました。コンサートを聴いたとき、小さい町に所属される楽団のレベルが凄く高く、何回いっても劇場が満席のことも驚きました。恐らくロシア人にとって、週末音楽を聴いたり絵を描いたり日常であろうと思います。この民族は芸術の才能が恵まれ、芸術そのものも深く愛して、だからこそこれほど作家、音楽家、画家が輩出して、世界中に影響を与えられたのでしょう。

そして、「ソ連」。私は中国人だと自己紹介をしたら、ロシアの年寄り達の反応はほぼ同じでした——「ああ！中国！毛沢東！スターリン！」それで皆「だ！だ！」と言いながら楽しく笑い、握手をしてくれます。毛沢東やスターリンを始め、すでに崩壊した共産党政権のソ連は今のロシア人にとってどれほど意義があるか、私は知りたかったです。一般市民の生活面から見ると、トムスクでは、学校の建物や、町の公衆バスなど市政建設の部分は、ソ連時代から作られ、今までまだ使い続けるものが多いようです。町中もロシア産の車をほとんど見られず、外車が多くて、スーパーの日常用品や食べ物も輸入品が圧倒的に多いです。公衆施設の建設、軽重工業の整備などの面では、恐らくソ連時代のほうが政府がより注力されたかもしれません。



そして町の中は、様々な記念碑と偉人の像がすごく多いです。もちろんすべての町ではレーニン像とレーニン通りが存在します。それ以外学校の校長先生、偉い母親、科学者、警察なども、記念すべき人の像は数えないほど立てられています。記念碑は偉人像よりも多て、古いほうが1812年フランスとの戦争のものもあり、新しいほうが第二次世界大戦のものがあります。驚くべきのは、1930年代大粛清の時に殺されたポーランド人の記念碑の隣はスターリン記念碑、しかも二つとも新鮮な花が飾られています。そう、ほぼすべての記念碑前には新鮮な花で飾られています。英雄は永遠に英雄、どんな時代でも、ツァーリ時代でもソ連時代でも、一度敵同士であっても、ロシアの英雄はロシアの英雄で、いつまでも人々に尊敬され、愛され、忘れられることは決してありません。全ての時代、全ての歴史、もちろん少し特別なソ連時代でも、同様に評価されていました。大粛清のようなあまり良くない出来事に対しても、直視することができたこそ、被害者記念碑を残すことにできました。

自分の歴史であれば、どのような歴史でも直面できる民族は、ほんとに強い自信を持ち、自分たちは誰か、未来はどの道を歩むべきか、しっかり認識出来ている民族だと思います。ロシアは大国だと思われることは、国土の広さだけではなく、国民の心の広さも理由の一つだと感じました。

添付写真の本、題名は「私たちは誰」です。今度の研修では、ロシアの人々とは「誰」という問題について少し触れ始まったような感じをして、とてもいい経験をしたと思います。そして今回の研修をきっかけで、例えば周りの日本人や、他国の知り合いなど、世界中の人々、皆が自分を「誰」として認識していることをもっと知りたくなりました。もちろん私自身もこの課題に対して、これから深く考えて行きたいと思います。

「ロシアでの研修を通して」

文教育学部 言語文化学科 1年

田實 真祐子

私は今まで海外体験がなく、そのためはじめは慣れずに体調をくずしたこともありました。しかし、現地の方々や同じ研修メンバーに手助けしてもらいながら、無事に三週間の研修を終わらせることができました。

研修はロシア語の授業と文化学習が中心でした。ロシア語は文法など座学よりも実際に口に出して話し、聴き、会話をすることが重んじられていました。また、ロシアの童謡や劇もする機会がありました。文化学習ではロシアの風習や祝日、食文化などを学び、実際にボルシチを食べたことが印象に残っています。

正直なところ、私はこの研修がとても不安でした。多くの人と行動を共にすることが私はとても苦手で、また一人で何かをする自信もなかったからです。現に、前述のように体をこわしたときには本当に心細いやら人が怖いやらで慌て、とても落ち込みましたが、終えてみるとだいぶ様々なことに慌てずに対応できるようになった気がします。これが一番大きな、この研修による私の変化だと思います。次に海外に行くときも今回よりは前向きに、かつ冷静に動けるのではないかな、と考えています。

今回の体験を通じて、私はもっと積極的に海外で学ぶ機会を見つけていきたいと思うようになりました。もちろん困ったり大変だったりしたことも多かったのですが、自分が成長しているのを感じたからです。また、私は日本文学の専攻を考えているのですが、とりわけ現代のメディアにおける文学やサブカルチャーに興味があり、それらのロシアでの広がりを見ることでより広い視野で考え学ぶことができると感じました。



SPRING SCHOOL OF THE RUSSIAN LANGUAGE AND CULTURE FOR THE STUDENTS FROM JAPANESE UNIVERSITIES

Syllabus

short courses for students

(72 hours)

February, 17th — March, 10th, 2014

Acomodation: Dormitory 3

#	Date	Time	Activity	Place	Comments
1	16.02 Sunday	12:00-13:00	Arrival in Tomsk Orientation in the Dormitory Free time	Dormitory 3	
2	17.02 Monday	10:00-13:20 4 academic hours with breaks: 5, 5, 10 min 13:20-14:00 14:00	Welcome in TSPU Language course: introduction. Lunch Orientation in the city	Building 1 conference-hall Building 1 conference-hall	Keiko Matsumoto, Hiroyuki Takata
3	18.02 Tuesday	10:00-13:20 4 academic hours with breaks: 5, 5, 10 min 13:20-14:00 14:00-14:45	Language course: initial test. Lunch Russian history and culture: "Everyone knows them: Russian folk tales for kids (Repka,	Building 1 conference-hall Building 1 conference-hall	

		14:45	Gingerbread Man, Hen Ryaba, Teremok)" Meeting with International Informational Center	Building 1, conference-hall	
		19:00	Meeting and Party with the TSPU students, studying Japanese (Russian exercises, games, conversation)	Building 1 room	
4	19.02 Wednesday	10:00-13:20 4 academic hours with breaks: 5, 5, 10 min 13:20-14:00 14:00-14:45	Language course Lunch Master-class "Traditional Russian doll-making"	Building 1 conference-hall Building 1, conference-hall	
5	20.02 Thursday	10:00-13:20 4 academic hours with breaks: 5, 5, 10 min 13:20-14:00 14:00-14:45	Language course Lunch Theatre Master-class	Building 1 conference-hall Building 1 conference-hall	
6	21.02 Friday	10:00-13:20 4 academic hours with breaks: 5, 5, 10 min 13:20-14:00 14:00-14:45	Language course Lunch Multimedia presentation "Russian superstitions and omens as a reflection of national character"	Building 1 conference-hall Building 1 conference-hall	

	22.02 Saturday	13:00-15:00	Visit to Russian Banya		
	23.02 Sunday	12:00	Free time Visit to the Symphonic Concert	Symphonic Hall	Tickets 200-250 rub.
7	24.02 Monday	10:00-13:20 4 academic hours with breaks: 5, 5, 10 min 13:20-14:00 14:00-14:45	Language course Lunch Multimedia presentation: "Slavic kitchen: how to cook borscht"	Building 1 conference-hall Building 1 conference-hall	
8	25.02 Tuesday	11:00-13:20 4 academic hours with breaks: 5, 5, 10 min 13:20-14:00 14:00-14:45 19:00	Language course Lunch Multimedia presentation: Legends of founding Tomsk Meeting and Party with the TSPU students, studying Japanese (Russian exercises, games, conversation)	Building 1 conference-hall Building 1 conference-hall Building 1, room	
9	26.02 Wednesday	10:00-13:20 4 academic hours with breaks: 5, 5,	Language course	Building 1 conference-hall	

		10 min 13:20-14:00 14:00-14:45	Lunch Master-class on doll-making	Building 1 conference-hall	
10	27.02 Thursday	10:00-13:20 4 academic hours with breaks: 5, 5, 10 min 13:20-14:00 14:00-14:45	Language course Lunch Russian Spring Holidays: Maslenitsa	Building 1 conference-hall Building 1 conference-hall	
11	28.02 Friday	10:00-13:20 4 academic hours with breaks: 5, 5, 10 min 13:20-14:45	Language course Russian meals: How to cook pancakes (presentation with tasting)	Building 1 conference-hall Building 1 conference-hall	
12	01.03 Saturday	14:00	Visit to Museum of Slavic Myth Master-class on Matryoshka making	Museum of Slavic Myth	Tickets 100-150 rub
13	02.03 Sunday		Pancake Street Festival		
14	03.03 Monday	10:00-13:20 4 academic hours with breaks: 5, 5, 10 min 13:20-14:00	Language course Lunch	Building 1 conference-hall	

		14:00-14:45	Presentation: "Stereotypes about Russians, Russia and Siberia: believe or not?"	Building 1 conference-hall	
15	04.03 Tuesday	10:00-13:20 4 academic hours with breaks: 5, 5, 10 min 13:20-14:00 14:00-14:45 19:00	Language course Lunch Theatre Master-class Meeting and Party with the TSPU students, studying Japanese (Russian exercises, games, conversation)	Building 1 conference-hall Building 1 conference-hall Building 1, room	
16	05.03 Wednesday	10:00-13:20 4 academic hours with breaks: 5, 5, 10 min 13:20-14:00	Language course Lunch	Building 1 conference-hall	
17	06.03 Thursday	10:00	Final language test	Building 1 conference-hall	
18	07.03 Friday	10:00	Individual consultations	Building 1 conference-hall	
19	08.03 Saturday		Free time International Women's Day		

20	09.03 Sunday		Free time		
21	10.03 Monday	10:00	Presentation of Japanese students about Japan, university or cultural life in the Russian language (from 3 to 15 min) Awarding certificates of graduation		

Addresses:

- 1.Dormitory 3: prospekt Komsomolsky, 64, Tomsk, 634041
- 2.Building 1: prospekt Komsomolsky, 75, Tomsk, 634041
- 3.Museum of TSPU: prospekt Komsomolsky, 75, Tomsk, 634041
- 4.Symphonic Hall, prospekt Lenina, 75, Tomsk, tel.:+7 (3822) 51 61 95
- 5.Botanical Garden of TSU: prospect Lenina, 36, Tomsk, 634050, tel +7 (3822) 529816
- 6.Big Concert Hall: pl. Lenina, 12/a, Tomsk, tel.: + 7 (3822) 51 59 56, <http://www.bkz.tomsk.ru>
- 7.Russian Banya: ul. Shishkova, 26b, Tomsk, tel +7 (3822) 52-73-49
- 8.Museum of Slavic Myth: ul. Zagornaya 12, Tomsk 634050, tel 210-333, 527- 950